令和７年７月５日

横路福祉会会報

〒七三七－〇一一三
呉市広横路四丁目一－四六
横路福祉会
編集発行人
神垣伸司
（〇八二三）七一－八一九七

「今年もやるぞー」

社会福祉法人　横路福祉会
理事長　神垣　伸司

７６年の歴史を重ねた横路保育所、卒園した子どもたちは元気でいるのだろうかと　ふと気になった。これまで、子どもたちの声でにぎわっていた横路地区であるが、ここ数年で空き家が目立ち子どものにぎやかな声も近隣ではすっかり聞こえなくなってきた。

保育所を取り巻く環境は、劇的に変化してきている。数年前までは待機児童が社会問題となり、保育所の受け皿整備が最大の課題とされ、当園でも定員数を増加した経緯がある。

しかし、近年、少子化は予想を超える速さで進み、特に呉市等人口減少地域では、定員割れ、統合、閉園の声をちらほら聴くようになった。当園でも、一昨年から、全体的な定員割れが生じる等、今後、こうした傾向は続くものと予測される。

今後とも、地域の保育所として、より地域ニーズをくみ取り、柔軟な事業展開をしていくことが必要と考えている。

こうした背景から、平成７年度において、家庭内で閉じこもっている園児（DV・ひとり親家庭等）を対象とした通園支援事業の取り組みを、また年度途中からではあるが、保育中に体調不良となった子どもに対して、保護者の迎えが来る間の応急的な手当て（限度内）をする病児保育事業に取り組むこととしている。保育所で新たに看護師を雇用し、主役である子どもと保護者の安心と安全の確保を図ってまいりたい。

こうした積極的な取り組みに心がけることができるのも、当園がPTA立ゆえ、地域と利用者に愛され頼られ続ける保育所のあるべき姿と考えている。

令和６年度　事業報告書

１．保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0 才 児	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
1･2 才児	41	41	41	41	41	40	40	41	41	40	40	40	487
3 才 児	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	25	25	307
4 才以上児	49	49	49	49	49	49	49	49	48	48	48	48	584
計	122	122	122	122	122	121	121	121	120	119	119	119	1,450
開所日数	25	24	25	26	26	23	26	24	24	23	23	25	293

２．一時保育利用者数（延べ人数）の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3 才未満児	49	66	51	44	56	63	91	81	79	94	101	90	865
3 才以上児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	49	66	51	44	56	63	91	81	79	94	101	90	865

３．延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
（標）利用者	126	138	139	138	89	100	113	121	83	107	144	167	1,465
（短）利用者	3	10	16	21	28	31	29	26	36	29	10	27	266

令和６年度　社会福祉法人　横路福祉会

貸 借 対 照 表

単位：円

科　目	金　額	科　目	金　額
流動資産	41,738,738	流動負債	6,029,581
固定資産	153,865,711	固定負債	7,724,200
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	22,897,491
		その他の積立金	92,950,000
		次期繰越活動増減差額	56,677,552
計	195,604,449	計	195,604,449

収 支 決 算 書

科　目	金　額	科　目	金　額
人件費支出	121,536,135	保育所運営費収入	154,236,438
事業費支出	18,322,235	受取利息配当金収入	37,111
事務費支出	12,237,174	その他の収入	1,903,260
その他の支出	2,769,710	施設整備等補助金収入	0
固定資産取得支出	3,261,930	積立資産取崩収入	723,500
積立預金積立支出	5,633,600		
当期資金収支差額	△ 6,860,475		
計	156,900,309	計	156,900,309

令和７年度　第１回役員会・評議員会

去る５月 29 日役員会、６月 12 日評議員会を開催し、令和６年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。

詳細（事業内容・財務諸表）はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

令和６年度事業報告書

１・事業の概要

(1)　令和５年の特殊出生率は 1.20 と急速に少子化・人口減少が進んでおり、当園でも 130 名定員を初めて下回る保育となった。機を同じく４・５歳児の保育士の配置基準が 30 対１から 25 対１へ 76 年ぶりの改訂、また令和７年度からは、１歳児も６対１から５対１へ最低基準の見直しがされた。当園は、すでに手厚い保育体制をとっていることから、チーム保育を実践するなど先駆的な保育を推進した。

子どもたちの成長に必要な各種行事は、工夫を凝らし、運動会は乳児・幼児クラスごとに、また発表会は、各クラス別・時間差で実施する等、例年とは異なる行事経験を通して自信や想い出作りに努めた。一方、閉鎖的な保育とならないよう、日常の保育状況の映像を ICT を活用し保護者へ配信した。

感染状況により、外出制限をすることもあったが、一昨年から取り組んだ「はっけん散歩」を引き続き実施した。不思議と思うことを見つけ、自ら調べた内容を発表会で発表するなど自信につながった。一方、この活動が本に向き合う時間を増やし、数や字に興味を持つキッカケとなった。体力向上に必要な園庭での活動は、クラス別に時間差を設け、遊びを通した体操や園庭内の散歩やランニングを行った。年度途中から、年長児による異年齢児交流を再開、またクラス内での役割当番活動、給食や掃除等のお手伝いを行うことで自主性の醸成につながった。

絵本の読み聞かせは、感染症に配慮しながら、幼児クラスや各クラス単位とし、回数の増加やその方法に工夫を凝らした。国際大学生のボランティアによる食育に関する絵本会は、食の大切さと体づくりに必要なことをクイズやゲーム感覚で学び、創造性の芽生えと集中力の養成に努めた。一方、保護者に対しては、在宅時間の有効活用のため、保育士の推薦する絵本だよりの発行や本の貸し出しを推奨し、家庭内で本と触れ合う機会を増やした。

(2)　情報公開については、ICT を活用した積極的な情報公開を行い公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報に留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開している。

(3)　健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布カツオの自然素材調理を実施している。年々増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携して子どもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。

食材費が高騰する中で、毎月の給食検討委員会で季節感のあるメニューの検討や工夫に取り組んだ。また、育ちの中での「食」への取り組み状況を保護者に伝え、保育所と家庭が一体となった子育てに力を入れてきた。

「子どもと共に、育てられて」

保育士　原田　明子

娘は、保育所に通っていた頃「ラーメン屋さんになりたいな」そんなお願いごとを短冊に書いていました。あれから時が経ち、娘も今では18歳。大学生となり、保育士を目指し日々頑張っています。

私の母も保育士だったことから、私自身も幼い頃から「大きくなったら保育園の先生になりたい！」とずっと思い続けてきました。そして今、こうして同じ職場で長く勤められていることが、決して当たり前ではないのだと、娘の「ずっと同じ職場で働くってすごいよね」という何気ない一言から改めて感じています。

学生時代、実習先としてご縁を頂いたのが、横路保育所でした。初めての実習に不安もありましたが、保育所の温かい雰囲気や子どもたちの無邪気な笑顔、そして先生方の丁寧なご指導のおかげで、毎日がとても充実していました。この実習での経験を通して、ここで働きたいという思いが強くなり、卒業後、そのまま横路保育所に就職させていただきました。素晴らしい先輩方に恵まれ、新人だった私にも温かく声をかけてくださり、丁寧にご指導いただきながら保育の現場で学ぶことができました。子どもたち一人ひとりと向き合うやりがいや、チームで協力して保育を行うことの大切さを肌で感じ、少しずつ肩の力を抜いて保育に向き合えるようになっていきました。また、仕事だけでなく子育てとの両立に悩んだ時期にも、多くのアドバイスを頂き、時には助けていただきながら、先輩方と一緒に子育てをしているような感覚でした。今でも我が子のように気にかけてくださる先輩方や、何でも相談できる温かな職場環境に恵まれ、この保育所に就職できた事に心から感謝しています。

数十年前に卒園した子どもたちが、今では保護者として横路保育所に戻ってきてくれる姿を見るたび、心から嬉しく思います。

〝職場〟としてだけではなく、〝保育所〟としても保護者の方々から選ばれる存在であるためには、職員同士のチームワークが欠かせないと感じています。保育士自身が安心して楽しく働ける環境だからこそ、保育所全体の雰囲気も良くなり、横路保育所ならではのカラーが自然と表れるのだと思います。私自身の経験を活かしながら、後輩たちと仕事だけでなく日常のことも気軽に話し合える関係性を大切にし、これからも働きやすい環境づくりに努めていきたいと考えています。

近年では、保育士という職業には多くの事が求められ、「夢だったのに、こんな大変だなんて…」という声を聞く事も少なくありません。しかし、それは保育士に限らず、どの職業にも言える事かもしれません。大変な事もありますが、ひとりで抱え込まず、先輩や同僚と相談し合い、支え合いながら働く中で、やりがいや成長を感じられるのだと思います。

「子どもが好き」という気持ちだけでは続けていけない仕事ではありますが、それでもやはりこの仕事には大きな喜びがあります。だからこそ、娘の夢をそっと背中から支えながら、暖かく見守っていきたい…今は、そんな気持ちでいっぱいです。そしていつか娘も、良い職場と温かな先輩方に巡り会えますように…心からそう願っています。

こども誰でも通園制度

6月より始めました

インスタ始めました

横路保育所
6 投稿　82 フォロワー

「私の憧れている人」

保育士　重森　琴音

みなさんには〝この人のようになりたい〟と思う人はいますか？

私の憧れの人は、誰よりも身近な存在である〝母〟です。

母は保育士として長年働いており、私は幼い頃からその姿を近くで見て育ちました。毎朝早くに家を出発し、帰宅する頃には疲れた様子をしていましたが、「今日も頑張った！」というやり切った表情が、今でも記憶に残っています。日々、子どもたちのエピソードを楽しそうに話してくれた中で、母が子どもたちに優しく寄り添い、時には厳しく、しかしその厳しさの中にも愛情を持って接していることが伝わってきました。

そして私が特に尊敬しているのは、母が私自身にも「子ども」としてではなく「一人の人」として接してくれていたことです。私が何かに挑戦しようとしている時や悩んでいる時にも「こうしなさい」と価値観を押しつける事はせず、「あなたが決めた事なら応援するよ」と、常に私の味方でいてくれました。また、悩みへの助言も解決策を提示するのではなく、自分自身で答えを見つけられるような言葉をかけてくれました。

そんな母の姿を見て育った私は、自然と「母のような保育士になりたい」と思うようになっていました。幼い私を「一人の人」として尊重してくれていた母の姿勢は、今の私の保育観の原点となっています。

小さい頃からの「保育士になりたい」という夢を叶え、ご縁があって横路保育所に就職しました。実際に保育の現場で働き始めると、母の偉大さを改めて実感する日々でした。保育士としての一年目は、何もかもが初めてで、毎日があっという間に過ぎていきました。「自分にこの仕事が務まるのか」と不安になることも多々ありましたが、その度に先輩方からの温かい言葉やサポートに何度も救われました。少しずつ子どもとの関わり方が分かってくると、可愛い子どもたちから元気や笑顔を貰える日々が始まりました。子どもたちの頑張る姿から、私も「頑張ろう」と思えるようになりました。あそびや活動の中で「できたー！」と達成感に満ち溢れた表情や声を聞くと、子どもたちと一緒にその喜びを分かち合えるのです。こんな素敵な仕事に就けたことを、心から嬉しく思っています。

保育所の先生方や家族などの周りの人に支えられて、私は保育士として４年目を迎えました。少しずつ中堅と呼ばれる立場に足を踏み入れつつあります。まだまだ学ぶことも多く、反省する日々の連続ですが、自分らしさを大切にしながら前に進んでいきたいと思っています。

そして今、「私は、母のように子どもたちを一人の人として見ている？」と自分に問いかけると、まだ自信を持って「はい」とは言えません。それでも、子どもたちの声に耳を傾け、思いを受け止めたり、その子らしさを大切にできるような保育を目指して、日々努力を続けていきます。私の憧れる母の背中を追いながら、これからも保育士として、一人の人として成長していきたいと思います。